

『kanOYA』家庭教育応援ナビ

おやなび

鹿屋市教育委員会 生涯学習課
鹿屋市共栄町20-1 ☎0994-31-1138

No.2
R8.1



家庭とは・・・♡ 子どもにとって安らぎのある楽しい居場所
♡ 社会へ巣立っていくために欠かせない場所
家庭教育は、「すべての教育の出発点！」

親の「笑顔」が子どもの「笑顔」をつくります。

新しい年を迎え、子どもたちはワクワクと新しい始まりを感じていることでしょう。子どもたちが心身ともに健やかに成長するためには、家庭での温かい関わりが何よりも大切です。その日の出来事を話したり、一緒に笑い合ったりする何気ない時間を設けていただき、笑顔と希望に満ちた一年になりますよう心よりお祈り申し上げます。



家庭教育支援をさらに拡充するために、昨年実施された「家庭教育講演会」や、「PTAフェスティバル」、「キッズまつり」において参加された多くの方々にアンケートに御回答いただきました。

「子育てに関してどのような不安や悩みがありますか。(複数回答可)」の質問で最も多かった回答は「しつけの仕方(48%)」、続いて多かったのが「子どもへの接し方(42%)」でした。

正しいしつけは子どもへの大切な贈り物



日頃、以下のような声掛けをしていませんか？

「すごいね!」「よくできたね!」「さすが〇〇ちゃん」「ダメでしょ!」「早くしなさい!」

これらの思わず口にしてしまうことばは望ましくない声かけのようです。「ほめる」「叱る」の声のかけ方次第で、親子関係や子どもの育ち方に大きな影響が見られます。間違っただめ方・叱り方をして、子どもの自己肯定感を下げ、自主性を奪ってしまわないように、ほめ方・叱り方のヒントを紹介します。

【子どもの自立を促すほめ方のポイント】

- ① 何が良かったか、できたか、具体的にほめる
- ② 結果だけでなく、その過程もほめる
- ③ 素直な思いや感動を伝える

【具体例】

友達に親切にできたとき

- △ 優しい子だね
- 元気になるように笑わせてあげたんだね

発表会がうまくできたとき

- △ すごくよかったよ
- 毎日練習していたもんね

テストの結果が良かったとき

- △ やっぱり頭がいいね
- 毎日のがんばりの積み重ねの結果だね

【子どもの自立を促す叱り方のポイント】

- ① 「ダメ」「違う」はなるべく使わない
- ② プロセスに目を向ける
- ③ なぜやってはいけないのか、理由を説明する
- ④ 親の気持ちを「アイメッセージ」で伝える
「〇〇しなさい」ではなく、「私はこう感じる」と伝えると批判的に聞こえない。

【具体例】

勉強をしないとき

- × ゲームばかりしないで早く勉強しなさい
- 明日の学校に間に合うのか心配になっちゃうな

門限を守らないとき

- × どうしていつも約束を守れないの
- 今回は守れなかったね。どうしたら守れるかな

テストの結果が悪かったとき

- × ひどい点数だね
- 次はできなかった問題が解けるようになったら

間違っただめは
しっかりと叱りましょう!

※ 叩く、殴る、食事を与えないなどの行為は、『虐待』になります。

かのやふるさと検定に挑戦!

【問題】 鹿屋市で子ども同士の学び合いを促し、そのあり方が昔の鹿児島「郷中教育」にも通じるとされる、地域で子どもを育てる事業は何でしょうか?

- ① 地域学習支援センター
- ② 鹿屋こども塾
- ③ 鹿屋郷中教育塾
- ④ 鹿屋寺子屋
- ⑤ ふるさと学習会



子育ての思い出

子どものころ、私は喘息持ちで夜になると咳が止まらず眠れないことがよくありました。そんな時はいつも母を呼んで、背中をさすってもらっていました。眠いはずなのに怒ることもなく、私が落ち着くまでずっとさすってくれて薬も用意してくれました。母の手の温かさや心配そうに見つめるまなざしは、今でもはっきり覚えています。



今もあの日々を思い出すと胸の奥がじんわりと温かくなります。母の無償の優しさがあったから、つらい夜も安心して眠れたのだと思います。

今は私が母になり、子どもは小学生と中学生。少しずつ自分のことを自分でできるようになり、頼ってくることも少なくなりました。けれど体調を崩した時などに「お母さん…」と呼ばれると、あの頃の自分と母の姿が重なります。子どもが私を頼ってくれることのありがたさを感じるたびに思います。あの夜、背中をさすってくれた母のぬくもりを、今度は私が我が子へと渡す番なのだ。

(鹿屋市在住 K.Mさん)

市民の方からいただいた
お便りを紹介します。



素敵なお話をありがとうございます。お母様から受け取った無償の愛という「ぬくもり」は、K.M様の中で今も息づいており、それが今度はお子様へ受け継がれていくのですね。

そして、この温かい記憶はきっと子どもたちが大きくなって、心の支えになるのでしょうか。愛の連鎖が未来へと続いていく、そんな希望を感じさせてくれる素敵なエピソードです。

(家庭教育アドバイザーより)

「子育ての思い出」を募集します！

子育ての思い出に関するお便りを募集しています。「楽しかった瞬間」、「感動した瞬間」、「大変だったこと」、「それを乗り越えた方法」、「親にしてもらった思い出」、「子どもの成長の喜び」、などなど。

文字数は400字程度。投稿された記事の中から数点を今後の家庭教育だより『おやなび』に掲載させていただく予定です。(掲載する際は、ご連絡いたします。)

投稿方法については、右の二次元コードにてご投稿ください。



<https://logoform.jp/form/UH2b/1228001>

家庭教育Q&A

Q 動画ばかり見ていて困っています。どうしたらいいですか。
(小4女子・保護者)

A 悩ましい問題ですね…。まずお伺いしたいのは、「家庭でのメディア(動画、ゲーム、スマホ、テレビ等)使用時のルールを決めていますか?」ということです。まだルールを決めていないなら、家族で話し合いの場をもちましょう。ルールを決めたのに子どもが守ってくれない、という場合、子どもが納得しきれず守れていないという可能性があります。もう一度、ルールについて話し合ってみませんか。

メディアの使用時間・使用場所・使用時に気を付けるべきことなど、紙に書き留めながら話を進めていくと良いでしょう。後々の「言った/言っていない」のもめごと防止につながりますよ。決めたルールは子どもが自分でまとめて、家族で確認できる場所に貼っておくといいでしょう。大事なものは一方的に保護者が決めるのではなく、子どもが自分で決めたルールにすることです。子どもから意見が出た時は、すべてメモを取ります。大人の意見もメモに取りましょう。その上で話をしていきましょう。柔軟にルールを見直していけるといいですよ。

もっと知りたいな、と思う方はぜひ相談されてくださいね!一緒に考えましょう。

鹿屋市青少年育成センター 教育相談員

ひとりで悩まず、心を軽くするお手伝いをさせていただきます。

鹿屋市教育相談室(リハビリ2階) ☎ 0120-555-655(無料)

kanOYAトーク

小学校では就学前子育て講座、中学校では思春期子育て講座が実施されています。今年は講話の後、新たにサロン型学習「kanOYAトーク」を実施しています。短い時間ですが、家庭教育アドバイザーやサポーターと一緒に参加型の『おしゃべり』の時間を設けています。参加者それぞれの子育ての悩みやヒントを共有でき、充実した時間となっています。

